

令和元年度 学校経営計画

1 学校教育目標

自立と社会参加を目指し、明朗で協調性に富む、健康な児童生徒を育成する。

校訓 「明るく 仲よく 元気よく」

2 学校の特徴

- ・ 知的障害や肢体不自由のある児童生徒を対象にした新川地域唯一の特別支援学校である。児童生徒の約8割が自宅から通学しており、その他は隣接の児童福祉施設から通学している。
- ・ 小学部・中学部・高等部のほか、通学して教育を受けることが困難な児童生徒のために訪問教育が開設されている。
- ・ 一人一人の可能性を最大限に伸ばすとともに、個別の教育支援計画に基づいて将来の生活の自立や、よりよい社会参加のできる児童生徒の育成を目指している。
- ・ 学部や学年の行事を通して、社会的な体験を広めるとともに、近隣の幼稚園、保育所、小学校、中学校、高等学校及び地域の方々との交流教育を大切にしている。
- ・ 関係機関と連携しての早期教育相談を実施するとともに、小学校・中学校・高等学校への支援等では、特別支援教育コーディネーターを中心に新川地域における特別支援教育のセンター的役割の充実を図っている。
- ・ 校内実習や就業体験、関係機関との連携を通して、卒業後の豊かな生活を目指した職業教育や進路支援に努めている。
- ・ 医療的ケアの必要な児童に対する教育活動への適切な支援を行うために看護師が配置されている。

3 学校の現状と課題

(1) 現状

- ・ 教育の対象が知的障害及び肢体不自由であり、年々、児童生徒の障害の重度・重複化、多様化が進んでいる。
- ・ 児童生徒一人一人の状態や教育的ニーズに応じた指導の充実を図るため、学校・保護者・隣接児童福祉施設が協力して個別の教育支援計画の作成や情報の共有を行う等連携を図っている。
- ・ 児童生徒一人一人の社会的・職業的自立に向け、キャリア教育の理解・推進を図っている。
- ・ 医療と密接な連携を必要とする重度の肢体不自由児童生徒が在籍している。
- ・ 新川地域の特別支援教育のセンター的役割を果たすことが求められており、小学校等への支援に積極的に取り組んでいる。
- ・ 小学校・中学校・高等学校・地域との交流及び共同学習を継続して実施している。

(2) 課題

- ・ 障害の程度や発達の状態に合わせた指導の充実
- ・ 特別支援教育に関する専門性向上のための現職教育の充実
- ・ 児童生徒一人一人のニーズに応じた進路支援の充実
- ・ 健康で安全な教育環境の整備
- ・ 特別支援教育のセンター的機能の充実

4 学校教育計画

項 目		目標・方針及び計画	
1	学習活動 重点1	目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 集団の中で一人一人が、主体的に取り組む力を培う学習指導の充実を図る。 ・ 小・中・高等部の一貫した支援の充実を図る。 ・ 自立と社会参加に向けた学習指導の充実を図る。
		計画	<ul style="list-style-type: none"> ・ 小学部、中学部、高等部での学びの系統性や一貫性、また、学びの深まりを意識し、「適切な支援や評価」を検証しながら、自立と社会参加に必要な力を培う学習指導に取り組む。 ・ 実態に応じた評価規準を作成し、授業改善に生かす。
2	学校生活	目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日常生活や社会生活に必要な力を身につけ、生活に生かす態度を育てる。 ・ 児童生徒の健康で安全な生活を保持・増進するための習慣・態度を育てるとともに、学校環境の整備を行う。
		計画	<ul style="list-style-type: none"> ・ 手洗いチェックカードを活用し、他者及び自己評価を基に正しく手洗いができるよう指導する。
3	進路支援 重点2	目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 児童生徒の多様なニーズに合わせた進路支援の充実を図る。
		計画	<ul style="list-style-type: none"> ・ 関係機関と連携を図って、進路支援に必要な情報を収集・整理し、懇談会や校内掲示、各種通信等を通して本人や保護者に提供する。 ・ 「進路指導の手引き」の見直しを図るとともに、教員対象の学習会で活用し、進路指導に必要な情報を提供する。
4	特別活動	目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 児童生徒会活動、学校行事等を通して、児童生徒の自主性、社会性の育成を図る。 ・ 本や読書への興味や意欲を高め、読書を楽しむ態度を育てる。
		計画	<ul style="list-style-type: none"> ・ 児童生徒会を中心として、あいさつ運動を推進する。 ・ 図書の実、図書室の環境整備、活用方法の工夫を行う。
5	その他 重点3	目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 特別支援教育のセンター的役割の充実を図るとともに、特別支援教育コーディネーターの専門性の向上を図る。 ・ P T A会員の積極的な事業への参加を促し、P T A活動の活性化を図る。 ・ 教員の知的障害教育、肢体不自由教育等の専門性の向上を図る。 ・ 教員の I C T活用能力の向上を図る。 ・ 各学部・分掌、担任業務の効率化を図る。
		計画	<ul style="list-style-type: none"> ・ 校内の特別支援教育コーディネーター連絡会を定期的に開催して、相談事例について、アセスメントを基にした支援方法や相談の評価を踏まえた支援の改善等について検討し、小・中学校等への支援を進めるとともに、関係機関と連携等しながら専門知識の習得を図る。 ・ 親子活動、進路に関する取組等を行い、P T A活動への興味関心が高まるよう、取組の方法や内容を工夫する。 ・ 学部研修等を通して、教員の資質向上を図り、自立と社会参加を目指した授業づくり・授業改善を行う。 ・ I C T機器活用に関する研修会を実施し、授業実践に生かす。 ・ 諸帳簿の入力業務の見直し、児童生徒の基本データの集約、管理を行う。

5 今年度の重点課題（学校アクションプラン）

令和元年度 にかわ総合支援学校アクションプラン - 1 -	
重点項目	学習活動（高等部）
重点課題	進路を見据え主体的に社会に参加する姿を目指す授業の充実
現 状	<p>高等部では平成29年度、30年度に、社会に参加する力を身に付けることを目指し、作業学習において「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に取り組む態度」の3観点を意識した授業づくり、授業改善を行った。また、社会に参加する力を育むため、生徒同士の関わりの深まりを促す場面の設定や、作業日誌の工夫、社会資源の活用を行う取組を行ってきた。</p> <p>これまでの実践により、生徒が周囲の人と相談して、自分の意思や願いに基づいて自己決定する姿が見られるようになり、社会に参加する力を培うことにつながった。しかし、目標の指標となる評価規準が曖昧だったため、生徒の「できた」こと、「分かった」ことを教師間で共通理解することが難しく、次の指導に十分に生かすことができなかった。</p> <p>そこで、今年度は、生徒の進路先を想定し、実態に応じた評価規準を作成した上で、学習評価の工夫や振り返り方法の改善を行い、生徒が主体的に社会に参加する力を培うことに取り組んでいく必要がある。</p>
達成目標	<p>作業学習における授業づくりの検討会の実施回数</p> <p>年間4回以上</p>
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・学部で対象の授業（作業班）を2つ決め、それぞれについて「指導案検討－授業－事後検討－改善授業－事後検討」の流れで授業検討を行う。 ・卒業後の生活と結び付けた視点で目標を設定し、生徒が「できた」「分かった」と判断できる評価規準を明確にする。 ・生徒の課題解決の過程を重視してPDCAのサイクルで取り組む。

（評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった）

令和元年度 にかわ総合支援学校アクションプラン - 2 -	
重点項目	進路支援（進路指導部）
重点課題	進路指導の手引きを活用した進路指導の充実
現 状	<p>本校では、児童生徒の実態の多様化、福祉や雇用に関する法改正等による状況の変化に伴い、進路選択が複雑になっている。企業就労する場合は就業形態や条件、福祉サービスを利用する場合は種類や利用の手続き、また、それぞれの支援機関等について、生徒、保護者、教員には分かりにくい現状にある。</p> <p>そこで、進路指導に必要な情報を教員に提供し、教員が見通しをもって進路指導ができるようにする必要がある。</p>
達成目標	<p>高等部教員対象の進路指導に関する学習会の実施回数</p> <p>年間4回以上</p>
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・日頃から関係機関との連携を図り、生徒の居住地の雇用状況、福祉の現状など情報収集に努める。 ・進路指導の手引きの内容を見直し、進路指導に生かせるようにする。 ・進路指導の手引きを活用し、進路指導の在り方や必要な情報について教員が周知できるように、ニーズに応じた形態で進路学習会を実施する。

（評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった）

重点項目	その他（教育相談部）
重点課題	学校コンサルテーションの視点に基づく教育相談の充実
現 状	<p>小・中学校等では特別支援教育への取組が進み、特別支援教育コーディネーター等を中心に、校内支援体制が整ってきている。しかし、児童生徒等の実態は様々であり、小・中学校等のニーズを的確に把握し支援を行う必要がある。</p> <p>そこで、今年度は、対象の児童生徒や学校の状況など訪問前のアセスメントから、支援後の評価までを大切に、学校コンサルテーションの視点に基づき、教育相談の在り方について検討・改善を行っていきたい。また、小・中学校等のニーズに応じた教育相談や情報提供ができるよう、特別支援教育コーディネーターの専門性の向上を図ることが大切である。</p>
達成目標	<p>校内の特別支援教育コーディネーター連絡会における事例検討（検討・評価・改善のサイクル）の実施回数</p> <p>年間3事例以上</p>
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・文献等から学校コンサルテーションについての情報を収集する。 ・校内の特別支援教育コーディネーター連絡会を定期的実施し、相談事例について、アセスメントシート、相談の自己チェックリストを活用し支援方針の検討を行う。 ・支援後は小・中学校等への経過の聞き取りや相談の自己チェックリスト等を使って相談の評価を行い、評価を踏まえて児童生徒等の実態（見立て）や支援方針を見直し、小・中学校等への支援を進める。

（評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった）